

日本小児泌尿器科学会（2024年）学会賞 臨床部門

当科における小児精索静脈瘤の再発の現状と対策



岩月 正一郎（名古屋市立大学大学院医学研究科 腎・泌尿器科学分野）

この度、第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会において、私の「当科における小児精索静脈瘤の再発の現状と対策」の演題に関しまして、学会賞（臨床部門）をいただくことができました。ご指導いただきました関係の皆様には深謝申し上げます。

私は男性不妊症を中心としたアンドロロジー（男性医学）診療を専門としております。以前よりこの学会では、小児の精索静脈瘤に関する演題を毎年発表してきました。その理由として、小児の精索静脈瘤について、(1) どのような患児に手術を行うべきか、(2) どのタイミングで手術を行うべきか、(3) 手術をした場合にどれだけ精子形成を担保できるのか、(4) 術後再発を予防するにはどのようなことに注意すべきか、といったことについて明確なエビデンスに乏しいことが問題であるからです。

私たちは2004年からこれまで、成人例と小児例をあわせて500例を超える精索静脈瘤手術（顕微鏡下低位結紮術）をしてきました。その経験から、これらの問題を解決するためのエビデンスを導き出そうと、治療法に工夫をしながら、様々な方向から臨床データを検討しています。今回は、通常の手術手技に加え、精巣を創外へ脱転し、精索周囲の拡張した静脈も結紮する手技を追加することで、再発率を低くできることを報告しました。

しかし、上に挙げたようにまだ解決すべき問題は残っています。これからも引き続き、より明確なエビデンスを示していくとともに、結果を世界へ発信していきたいと思っております。少しでも多くの小児精索静脈瘤のお子さんが、将来安心して妊活に取り組めることを思い描いて、診療および研究を継続してまいりたいと考えております。今後とも変わらぬご指導のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。